

* 一戸直蔵の資料が入手できる！

2008年5月31日土曜日、国立天文台輪講室で「談天の会」第40回があった。中桐が「談天の会」の存在を知ったのはつい最近の事である。1875年製のトロートンの望遠鏡に関わり、中村士氏がそのことについて「談天の会」で講演したことがあると聞いたのが最初であるから、まだ1年にならない。国立天文台ニュース2000年10月号で中村士氏が1875年製のトロートン・シムスの望遠鏡を国立天文台最古の望遠鏡の「子午儀」として復元した記事を書いている。中桐はこの記事の後日談として、中桐が天文情報センターに入って入手した情報を元に、この望遠鏡は明治政府の内務省地理局が仙台の愛宕山の経緯度測定に用いた24英寸経緯儀望遠鏡だったことを突き止め、その考察について第40回談天の会で話す機会を得た。今回は1875年製の望遠鏡のことではなく、この会で出会ったアマチュア天文学界の佐久間精一氏の講演に対して中桐が反応したことについて報告したい。

佐久間氏は「一戸直蔵博士の資料保管について」と題した講演を行った。佐久間氏は、神田茂、五味一明、富田弘一郎氏から引き継いだ一戸直蔵の資料を保管しており、これらの資料を一戸直蔵の郷里である、現在の「つがる市」に寄贈する提案をしたが、財政難で引き受けられないといわれ、他に一戸直蔵の貴重な資料を譲り受け、その功績を後世に伝えるべき引き受け手を捜していると講演された。

一戸直蔵(いちのへ なおぞう、1878年8月14日 - 1920年11月26日)は青森県西津軽郡越水村(現・つがる市)出身の異色と言われた天文学者で、日本で最初の変光星の観測者であり東京天文台0Bである。一戸直蔵は、1903年東京帝国大学理科大学星学科を卒業した明治後期の先駆的天文学者で、1905-07年シカゴ大学ヤーキス天文台に留学し、当時世界最大のヤーキス天文台望遠鏡を使った観測を行い、当時の日本人としては珍しく数多くの変光星観測の英文論文を書いている。また1908年に設立された日本天文学会機関紙「天文月報」の実質上の編集者であった。一戸はヤーキス天文台での観測経験をもとに、町の明かりを避けて赤城山頂や台湾の新高山頂(玉山)に天文台を作る案を出し、その調査のために1909年と1911年の2回にわたり新高山を探検したことでも知られている。麻布にあった東京天文台の移転先とした三鷹は、何れ麻布と同じ運命になるとして、赤城山天文台建設案を提案し、当時の寺尾台長他、年長者と対立し天文台を去ることになってしまった。野に下った一戸は1913年『Nature』誌や『Science』誌にならって『現代之科学』を発刊、多くの天文学や科学一般の著作・翻訳を出版し、天文学の啓蒙に尽力したが、1920年過労のため結核を患い42歳でこの世を去ってしまった。写真1(インターネットから入手した画像)が一戸直蔵である。



写真 1

佐久間氏が示した資料目録は、

- 1) 視線速度関係：エルケス天文台観測記録、整約計算、Line of Sight Constants of 120 Stars
- 2) 変光星関係：変光星図（エルケス、麻布天文台で使用）、観測野帖（コピー、現物は川崎市科学館富田資料中にある）、本人作成恒星別整理記録（データベース入力後富山天文台にて保管中）
- 3) Micrometrical Observation of Comets and Asteroids(1906), Comet: Finlay, Knopf. Asteroids: 7Iris, 10 Hygeia, 37 Fides
- 4) 英文原稿: Astronomical Refraction, Spherical Astronomy in General, Eclipses, Outline of the Shadow on the Surface of the Earth, Rising and Setting Limits, Maximum Curve, Prediction of a Solar Eclipse for a Given Place, Lunar Eclipse, Occultation of the Fixed Star, Northern and Southern Limits of Total or Annular Eclipse.
- 5) 和文原稿：表題欠（恐らく商船学校用の航海天文学）
- 6) 1910 Comet 位置観測
- 7) 「現代の科学」主要記事コピー：第1巻は古書店にて購入し国会図書館に寄贈
- 8) 新高山天文台：計画立面図及び平面図（彩色）、主要望遠鏡価格、東京・台中・阿理山気温年変化グラフ
- 9) 雑：Mrs. Barnard and Miss Calvert 宛レター原稿

これらに加えて、現在、川崎市青少年科学館に所蔵されている変光星観測野帖の現物をぜひ加えることが提案されており、それらを寄贈した富田弘一郎氏のご遺族のご了解を得て、一戸博士の論文コピー、著書、蔵書、新聞・雑誌の博士関連記事コピーなどを含め1箇所にとりまとめて所蔵、展示の方向で考えています。この先見性をもった先人の業績をアーカイブ室では大切にしたいと考えています。